

事前評価報告書

事業名: つなぐ、つながる復興へのおもい

実行団体: 一般社団法人ドットリバー

報告者: 一般社団法人ドットリバー

資金分配団体: 一般社団法人RCF

実施時期: 2021年6月～2023年3月

対象地域: 熊本県人吉球磨地域

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要
熊本県人吉市は、2020年7月に発生した豪雨災害による球磨川の氾濫により多くの住宅、商工事業者が被災した。国宝青井阿蘇神社をはじめとする観光拠点や、飲食店、宿泊施設、人吉温泉、鉄道、球磨川くんだり、ラフティングなど、観光資源の多くが壊滅的な被害を受けた。水害前からの取り組みとして人吉市まち・ひと・しごと総合交流館「くまりば」を活用して、様々な企業や大学と交流・マッチングを促進し、事業承継問題をはじめとする事業者が抱える課題の解決、新事業展開へのサポート、テレワークなど新しい働き方の受け入れ拠点として運営を続けてきた。豪雨災害の被害や新型コロナウイルス感染症により、主要産業である観光業の再建までにはしばらく時間がかかる今、テレワークやワーケーションの誘致によって地域に関わる関係人口・交流人口づくりを通して被災飲食店や宿泊施設関係者との連携による、復興に向けた取り組みを生み出す。
中長期アウトカム
これまでになかったワーケーション等での来外者も定期的に地域に訪れ、「観光×ワーケーション」の掛け算が、人吉市に新たな地域ブランドを生み出し、被災前よりも賑わい溢れる活性化した地域となっている。また、人吉市内の地域内事業者・行政・その他事業関連団体が連携し、地域一体となってネットワークを構築することで人吉球磨地域において、新たな観光の枠組みが生まれている状態となること。ワーケーションで年間300人が訪れる地域になっている。
短期アウトカム
ワーケーションに対応できるケータリングやこれまでにない宿泊事業者との連携など新たなチャレンジを進めることで、被災事業者の意識も変化しサービスの幅が広がっている

事業の背景

(1) 社会課題
主要産業の一つである観光関連事業者(宿泊および飲食事業者等)が、広範囲に豪雨災害にて被災し、再建までに2年以上を要する。また、大部分の飲食事業者は、災害前店子として事業しており、建物も再建しない限り事業開始が難しい状況である。その中、再建に向けて、災害前の顧客が戻ってくるか、また再建するか否かの不安を抱えている事業者が多く、その再建に向けての取組みが求められている状況である。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
行政としては2021年3月末に「人吉市復興計画(第1期)」を策定し、今後これに沿って復興まちづくりを行っていく。商工業の再生・復興については、主にハード面から着手を行っている状況である。例えば、ラフティングや球磨川くんだりといった観光アクティビティは、豪雨災害による川底の堆積物を河川掘削によって取り除き安全が担保されなければ動き出せないため、川底の堆積物の掘削工事を行っている。また、被災事業者の再建を支援し、新たな産業の場をつくるため人吉駅前に「復興商店街」街中には「復興コンテナマルシェ」を設置した。行政の施策に鑑みながらも、民間として今あるリソースを活用しながら事業者の支援を行っていく。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部	評価全体の進行管理/ワークショップファシリテート/評価報告作成	一般社団法人ドットリバー 代表社員
	ワークショップ参加者	一般社団法人ドットリバー 代表理事
	ワークショップ参加者	一般社団法人ドットリバー
外部	事前評価に関する専門的知見からのアドバイス提供	人吉市役所商工振興課係長
	事前評価に関する専門的知見からのアドバイス提供	人吉市役所観光振興課係長

評価実施概要

評価実施概要
新型コロナウイルスの影響と外部評価を依頼している行政関係者が多忙となり、予定していた7月末の時期を延期さざるを得なかった。関係者が集まることができた2021年7月30日～2021年8月2日に、評価業務を人吉市まち・ひと・しごと総合交流館くまりばで開催した。外部評価していただく方には、事前情報をインプットしていただいた上で、担当課で持ち帰っていただき、それぞれ調べたものを持ち寄り、その情報をもとに報告・ディスカッションを実施した。
自己評価の総括
外部評価していただいた関係者それぞれが、復興に向けた取り組み等に尽力していただいているメンバーということであり評価前調査において時間的な猶予が確保できない中での実施となったため、十分な分析に至ったとは言いがたいが、概ね、当初の事業計画から今回の評価の結果を見ると想定範囲内の結果となった。しかしながら、新型コロナウイルスがここまで長期化し、むしろ感染拡大し続けており、不要不急な外出制限など経済面においても多大な悪影響を及ぼしてしまう状況は想定よりも大きく外れていた。これまで地域内に入り込んでいなかった新たなワーケーションコンテンツを作り上げ広めていくにあたり、敬遠されてしまわないよう、それぞれの被災事業者と密にコミュニケーションをとり続け、情報を共有し合いながら連携して作り上げていくことが必要である。今回のようにしっかりと時間をとって評価を実施する他にも、情報が集中しやすい市役所や観光協会、商工会議所とも更に連携を強化し定期的な細かいヒアリングなども重ねていく必要があると考えられる。自分たちで作るだけでなく、まわりと協力して一緒に作り上げる、作り上げたものを発信する。ドットリバーのテーマでもある「つなぐ」を原点に、今事業のテーマでもある「復興への想い」をつなげて災害前よりも賑わい溢れる地域を作り上げていきたい。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>【解決しようとする社会課題にはどのような解決の必要性・切迫性があるか】</p> <p>飲食店等の事業者が今後まちなかに戻るためには、不動産オーナーがまず店舗を再建する必要があるが、災害前の観光コンテンツが利用できずに人が呼び込めない状況が長引くと、不動産オーナーの意欲が低下し、多くの事業者がまちなかに戻るができなくなる可能性がある。少しずつ動き出している、ラフティングなどの既存のコンテンツと、新しいコンテンツの双方で、早急に人吉の街中に人を呼び込み、不動産オーナーを含めたまちなかの事業者の復旧へ向けたマインドを低下させず、やる気を持続させる必要がある。</p> <p>【課題の問題構造を十分に把握しているか】</p> <p>街なかのハードの再建をただ待っていても、宿泊や飲食等の観光事業者が市外へ流出する、もしくは廃業を余儀なくされることが考えられる。ハードの再建の完了を待たずに、まずは人を呼び込み、事業者が動き出すきっかけをつくるという解決の糸口は、問題構造を十分に把握したものである。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	<p>【事業の対象グループの選定は適切か（対象、規模など）】</p> <p>宿泊事業者及び飲食事業者のグループと、市内でも人を呼び込む力を持っている「球磨川くだり株式会社」「くま川鉄道株式会社」「青井阿蘇神社」となっており、非常にバランスがとれている。</p> <p>【事業の対象グループはどのような問題・関心・期待・懸念などをもっているか】</p> <p>従前の「団体旅行」等では、夕食(宴会)と宿泊のみで、人吉市内の飲食店の利用や、そのほかの観光スポットの利用などが少なかった。宿泊と食事を分け、コンテンツを加えることで、呼んだ「人」に、様々な事業者を利用していただける仕組みづくりが必要である。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	<p>【事業を通して最終的に達成したい目標や中間的なアウトカムが明示されているか】</p> <p>訪問客確保数に関しては、49の事業者が連携していることから、もう少し意欲的な数字を出しても良いのではないか。その他については妥当であると考える。</p>
	(④事業計画の妥当性)	概ね高い	<p>【達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか】</p> <p>地域内コンテンツ作りについては市内の各団体等とも連携される予定であり、実効性があるものである。しかし、コロナ禍であるため、計画がスケジュール通りに進みにくいことはある程度考慮しておく必要があると思われる。また、一般社団法人ドットリバーのこれまでの事業により、大きなネットワークを持っていることは確かであり、誘客の拡大が見込まれる。連携して事業を進める中で信頼関係を築くことができ、再建へ向けたサポートができるものと考ええる。</p> <p>【アウトプットの目標値は妥当か】</p> <p>誘客については、49の事業者が連携していることから、もう少し意欲的な数字を出しても良いのではないか。その他については妥当と考える。</p>

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は令和2年7月豪雨災害において被災した、地域内事業所（飲食店や宿泊事業者含む）の再建に向けた取り組みの加速化を目的としており、そのため本来は観光都市としてこれまで地域づくりを行ってきた人吉市の事業所が、豪雨災害によるハード面での課題を抱えたまま復旧に立ち向かうだけでなく、再建を果たした事業所においても、新型コロナウイルス感染症のより、本来期待していた来客がなかなか見込めていない現状は想定していた。これまで地域内で実施していなかったワーケーションという新たな取り組みを被災事業所と連携して実施検証することで、新たなコンテンツによる新たな来外者の受け入れを通して、復興への取り組みが足踏みすることなく前に進み続けることができ、事業終了後は自律的に実施されていくことが大切である。また新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言や蔓延防止措置によるイレギュラーなブレイクが発生してしまう事案がここ数ヶ月でも数回発生してしまっており、常に被災事業所の現状を各関係機関と連携しながら情報交換して進めることが特に重要であると関係者間（人吉市役所、一般社団法人ドットリバー）で合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

災害からの復興に向かう過程の中、新型コロナウイルス感染症により、飲食店や旅館ホテルなどをはじめとする観光事業者は、復旧復興の過程で予想外の事態に直面している。災害が発生し復興に立ち向かう地域を応援したい、地域を訪問して復興への力になりたいという声は沢山いただいているものの「復興需要」の集客等もコロナによる不要不急の外出制限により厳しい状況が続いている。地域内で会員顧客を獲得している飲食店等は、なんとか地域内の営業で成り立っている様子が見受けられるが、これまで観光客のみをターゲットとしていた店舗に関しては再開以降は、なかなかお客さんが入ってきていない。ハード面での整備が同時期に完了していたとしても店舗の置かれている状況はバラバラのようだ。これからワーケーションを軸とした新たなコンテンツ作りの取り組みを進めていく中で、お客さんのニーズにも答えつつも、地域内被災事業者の状況を細かく捉えつつ連携の糸口を見つけていく必要があると考えられる。情報が入ってきやすい人吉市や観光協会や商工会議所なども連携して、ドットリバーの強みである人の繋がりやネットワークをうまく活用しながら本事業が目指すアウトカムの創出、自走できる持続可能な地域づくりに尽力して行きたい。

添付資料